



子どもの教育が第一 少人数学級の実現を!

子どもたち一人ひとりが、いきいきとした学校生活を安心して送れるよう、
教職員がしっかりとサポートできるよう、「少人数学級」の実現が急務です！
実現に向けた教育投資に取り組んでください！

保護者や現場のニーズに沿った 教育環境を！

社会が多様化し、学校現場で抱える課題も加速的に増える中、今こそ、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育の実践が強く求められています。

また、本年度から段階的に新学習指導要領が実施され、授業時数と学習内容が増加しています。子ども一人ひとりの学力をしっかりと保障するためにも、少人数教育のニーズはますます高まっています。にもかかわらず、行政改革の名の下、授業時数の増加に対応するだけの教職員の充実も抑制されているのが現状です。

日本はOECD諸国の平均水準と比べても一学級あたりの子どもの数が多いのが現状です。30人を超える学級で学ぶ小学生は全体の約5割、中学生は8割を超えています。

様々な課題に対応していくためには、国際水準並みの少人数学級を実現する必要があります、そのための国による教職員定数改善が不可欠です。

せめて、国際水準並みの教育予算を！

日本の教育予算は国内総生産(GDP)の3.3%にとどまっており、OECD諸国の中で最低水準になっています。経済格差・教育格差の深刻化が進む中、誰もがひとしく教育を受ける機会が揺らぎつつあります。

子どもたちの学びの機会を均等に保つ公教育の充実のために、教育予算を少なくとも国際水準である4.9%にまで引き上げ、財政的基盤を確保することが必要です。

<グラフ出典>
OECDインディケーター2009年度版

